

故鎌倉芳太郎氏を那覇市名誉市民に追贈し顕彰することを求める決議

人間国宝で、沖縄の紅型・藍型等型絵染の研究・伝承者である故鎌倉芳太郎氏は、今から 100 年前の 1921 年（大正 10 年）に来沖し、沖縄県女子師範学校と沖縄県立第一高等女子校の教職に就きながら、新たに市制施行された那覇・首里から消えゆく琉球王国時代の文化を慈しみ、勃興する沖縄学の研究者との交友により琉球芸術研究に目覚めたとされる。

帰京後も、琉球芸術調査のため再三にわたり来沖し、尚家に秘蔵された御後絵や貴重な古文書、市内外の美術、文化財等を写真、ノートに記録し、それらの資料は、「鎌倉資料」と呼ばれ、後に沖縄県立芸大に寄贈され、2005 年にはその一部が国の重要文化財として指定された。「琉球文化全般の最高のフィールドワーカー」と称された鎌倉氏が遺したものは、今なお、工芸、民俗、歴史研究の貴重な資料として活用されている。

とりわけ琉球紅型が沖縄県の無形文化財、また国の伝統工芸品として発展を遂げるに当たり、鎌倉氏の功績は、戦前に収集・保管していた大量の型紙を残したことのみならず、伝統的技法の伝承等、多大なものがある。

また、鎌倉氏は首里城の文化的価値を最初に見いだした研究者で、大正末期の首里城取壊しの危機に際しては、伊東忠太東京帝国大学工学部教授とともに奔走し、間一髪で取り壊しを回避させている。さらに、琉球王朝文化の象徴、戦災復興のシンボルとして首里城が、本土復帰 20 周年事業で復元された際には、鎌倉氏が大量に遺した写真資料、緻密な絵図等が活用され、細部にわたる復元に多大な貢献をされている。

このように、首里城を二度救い、沖縄戦で壊滅に瀕した琉球文化・芸術の保存・継承に果たした鎌倉氏の偉大な功績は万人が認めるところである。

よって本市議会は、焼損した首里城の再建作業が本格的にスタートし、首里城のある本市の市制 100 周年の節目の年に、沖縄県民の心の拠り所となっている首里城と琉球文化・芸術の大恩人である鎌倉芳太郎氏の偉大な功績をたたえ、那覇市名誉市民として追贈し顕彰されるよう求めるものである。

以上、決議する。

令和 3 年（2021 年）3 月 22 日

那覇市議会

あて先 那覇市長